

まちの話 だい

2月3日 | 春を告げるかわいい鬼

くりのみ保育園の園児約30人が、節分の日に鬼などに扮して市役所を訪れました。

青・赤・ピンクの鬼やお多福のお面を付けた子どもたちは、保育園から大行進。この日のロビーでは、障害者福祉事業所のオリジナル商品を販売する「にじいろ市場」も開催され、かわいらしい鬼たちは市場を訪れた人や来庁者に笑顔と福をまいていました。



2月27日 | 戦国時代の工法に驚き

国指定史跡「すわほらじょうあと諏訪原城跡」で、発掘調査の現地説明会が行われました。

史跡整備に伴う発掘調査は、12年目を迎えました。説明会では、今年度調査したV字型の堀「やげんぼり薬研堀」や門の礎石、鉄砲玉などについて学芸員が解説。訪れた約160人の歴史ファンは、深さ7.5mもある堀の大きさに驚きながらも、戦国時代の山城の姿に思いをはせていました。

3月4日 | おうか桜花にらんまん笑顔も爛漫

春の訪れを市民に告げる「おびざくら帯桜」が、今年も市民会館前で淡いピンクの花を咲かせました。

帯桜は、例年2月下旬から3月上旬に見ごろを迎える早咲きの桜で、全国でも市内でしか見られない希少品種として人気を集めています。

今年は、2月末に一気に咲き始め、月が変わると満開に。家族連れなどお花見に訪れた多くの人が、咲き誇る桜を堪能していました。





2月14日 | 島田をまるごと元気に

しまだ楽習センターで、地域参画や魅力的なまちづくりについて語る「島田まるごと元気シンポジウム」が開催されました。

東海大学・河井孝仁教授の基調講演に続き、千葉県流山市や奈良県生駒市、神戸市の担当者が元気なまちづくりの先進事例を熱弁。また、島田商業高校の生徒が企画した対話の場では、地元を好きになる気付きが多く生まれました。

2月13日 | 若者がもっと住むまちへ

人口減少対策について考える取り組みとして「島田市に住みたくなる仕組みづくり」をテーマに、静岡県立大学の学生と市民による協働ワークショップが開催されました。

20代・30代を中心とした参加者約40人は、島田らしいライフスタイルや若者を定住に導く方法を検討。「若者目線のPRが大事」といった数多くのアイデアが提案されました。



トピックス

ふるさと大使故郷を語る

2月19日、ふるさと大使の川合正矩氏と染谷市長の対談形式の講演会がプラザおおりホールで開催され、会場は約600人の市民で満席となりました。

この講演会は「ふるさと島田市への想い」をテーマに、FM島田の公開収録も兼ねて開催。川合氏は、ふるさとでの思い出や学生時代のエピソード、人生観などを語ってくれました。また質問コーナーでは、物流会社の経営者としての考え方などに、来場者は熱心に耳を傾けていました。